

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500093		
法人名	株式会社夢工房		
事業所名	グループホームみんなの家【ユニット名:2階】		
所在地	和歌山県東牟婁郡太地町太地2902-95		
自己評価作成日	平成23年3月14日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3092500093&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成23年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りといっしょに、理想の生活(介護現場)をつかっていきたい
いい生活を守るためには、心ある職員の養成が不可欠です。「歳をとっても(夢)したいことをあきらめない」の理念の通り、利用者も職員も思いが実現できる場所でありたい。
「みんなの家」の名前の通り、普通に自宅でるように、自分の家族にするように、利用者同士の助け合いも支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太地町の海を見渡せる美しい景観に恵まれた「みんなの家」は1階と2階に各1ユニットで、平成22年4月に開所された。法人代表者である管理者は認知症高齢者にとっての幸せが何かを追求し、2階建ての2ユニット全体を1つの家とみなした独自の形態でケアを実践している。開所して一年足らずで経験年数の浅いスタッフも多いが、管理者は『心を大切にする介護が出来るケアスタッフの育成が認知症高齢者の幸せにつながる』という考えを持ち、人材育成にも力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「歳をとっても夢(したいこと)をあきらめない」を理念として、日々取り組んでいます。管理者と職員は毎週話し合いを持ち、理念の共有と実践に心がけています。	職員、入居者に共通した理念を掲げ、意欲をもって日々のケアを行っている。理念の「夢をあきらめない」はやや抽象的な表現となっている。	更に、地域密着型サービスのなかで入居者の暮らしを支えることを具体的にイメージしやすい理念となることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕食の買い物に、利用者と地域のスーパーへ出かけるなど、普通に自宅にいる立場での交流を心がけています。	自治会に加入しており、職員は地域の清掃にも参加している。地域のスーパーでの買い物や散歩を通して、地域の人々との交流を図っている。	開所1年目で、地元太地町の入居者や職員は少ないが、「みんなの家」が地域に溶け込んで、近隣の住民と交流できるような、今後の働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できるだけ外に出かけるなど、ありのままを見ていただき、その姿で安心していただけるよう心がけ付き添っています。見学、相談は随時可能です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期開催し、活動内容をわかりやすいように写真で紹介しています。家族全員にお誘いし、みんなで支える介護を模索しています。	2ヶ月に1回定期的に開催している。行政・民生委員、家族、当事者が参加している。パワーポイントを使用して事業所の現状を視覚的にわかりやすく報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町へは毎月入居状況の報告を行い、運営推進会議にも参加協力いただいています。	定期的に入居の状況を報告している。また、行政との連携を密にとり、話し合いや提案を行い、地域住民が安心できる体制の構築に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に明記するとともに、玄関に施錠しないケアを心がけています。リスクの高いご家族には特にご理解いただけるよう状況報告しています。	身体拘束をしないケアを実践している。安全確保のために鍵をかけることを希望する家族にも理解が得られるように、拘束をすることの弊害をわかりやすく説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修し、虐待の防止に努めています。		

【事業所名】グループホームみんなの家 ユニット名:2階

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用が必要な方については管理者が支援しています。職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修し、それらを活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安が消えるような説明を行い、理解が得られるよう心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部機関の苦情相談窓口を書面で説明しています。ご家族全員を運営推進会議にお誘いする等、普段から意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに心がけています。	利用料を毎月家族に持参してもらうことで、最低月に1回以上家族と話し合う機会が持てるように工夫している。訪問した家族も一緒に食事に誘うなど、話しやすい関係を持つ努力がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員を育てるために、管理者と職員は毎週話し合いを持ち、前向きな意見を引き出し、一度やってみることをすすめています。	管理者は職員と個別面談の機会を設け、意見を聞いている。毎週の話し合いの場で、運営への提案を求める努力がなされ、職員が管理者に話しやすい関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをもって長く働けるよう、労働条件の最善に努めています。処遇改善交付金は介護職員に全額支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるために、職員の思いが実践できる場所でありたい。働きながら資格取得も応援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により、自所の長所短所を発見できる機会とし、今後増やしたい。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活の不安を最小にするため、今までの生活リズムを尊重して、時間をかけて徐々に慣れて行く過程を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい生活の不安を最小にするため、ご家族の意見を取り入れ、理解と協力が得られるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時には、入居に関わらず、状況を勘案して知りうる有効な方法を助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「みんなの家」の名前の通り、職員も利用者もお互いに支え合う関係を目指しています。利用者同士の助け合いを支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって一番大切なのはご家族ですから、ご家族と情報を共有し、理解と協力が得られるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普通に自宅にいるように、買物等外出をし、手紙を出すなどしています。ご家族や知人が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけています。	地元太地町の入居者は少く馴染みの関係の継続は難しいが、入居者が希望する自宅への訪問や買い物、お墓参りなど馴染みの場へ出かける支援も行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを早期に予防して、いい面が出せるように心がけています。		

【事業所名】グループホームみんなの家 ユニット名:2階

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居したあとでも、本人やご家族の相談を受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の意向、今までの生活リズム、関係性を尊重しながら、明日に生きがいを感じられるような支援を模索しています。	その人らしさの情報を共有するための記録は少ないが、本人の思いや希望・意向の把握に努め、家族や入居者から得た情報をミーティングなどで話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャーからの引き継ぎや本人、ご家族からの情報等、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録から健康、食事、排せつ、人間関係等、生活の中で変化がないか把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は本人、ご家族との信頼関係を築く中で得た、思いに近づく情報を共有し、試行しながらがより良いケアプランを完成を目指しています。	ケアプランは家族や職員の意見を取り入れて、管理者が作成している。その人らしさに沿って、意欲や自信を引き出せるような個別性のある具体的な内容はあまり見られない。	本人がよりよく暮らすために日常の介護に個別性を持たすことが出来るようなケアプランの作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した個別記録は職員全員で記入し、情報を共有し、試行しながらがより良いケアプランを完成を目指しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は、もし自分の家族であればと考え、できることは行えるよう心がけています。		

【事業所名】グループホームみんなの家 ユニット名:2階

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普通に自宅にいるように、地域の方々と生活していけるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する医療機関を利用しています。受診にご家族が付き添えない場合は、職員が付き添い適切な医療を受けられるように支援しています。	希望に添った医療機関が利用できるように支援している。家族に代わって町外の医療機関への受診支援を行うことも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に相談しています。近隣の医師の定期往診時にも気軽に相談できます。		
32		○入退院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、ご家族等が後悔されないように丁寧に説明し、理解が得られた場合、医師と相談して受け入れています。	医療的な支援には限界があるが、対応できる範囲を説明して理解を得られるように話し合い、本人・家族が納得できる終末期の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習やAED講習を受講し、緊急時対応マニュアルにそって訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消防立ち会いの訓練や防災研修を受けています。非常食を備蓄しています。	近所の住民は少なく、地域での協力体制は難しいが、防災計画に沿った消防署の立会いや自主的な避難訓練を行っている。避難所は徒歩5分程度の場所にあり、車椅子も3台常備している。	夜間は職員1人体制であり、非常時には地域の協力が不可欠となる。運営推進会議の議案に取り上げるなどし、協力体制を整えることが望まれる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関係を理想とし、職業人として相手の立場に立った親切さ、丁寧さを心がけています。	プライバシーに配慮して、プライドを損ねない声かけを心がけて入居者と接するよう務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念の通り、したいことが実現できる場所でありたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同じである必要はありませんので、一人ひとりのペースに合った前向きな一日の過ごし方をいっしょに模索しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かけて行く機会を増やし、おしゃれができるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を生活の主軸と考えて、いっしょに作っていっしょに食べています。今はまだ週2日ですがメニューを決めず、いっしょに買物に出かけています。	各階で職員と共に食事している。盛り付けは各階で行なうが、朝食以外は2階ユニットの食事も1階で作っている。一部の入居者は調理・準備・後片付けまで積極的に関わっているが、食事作りの場にいらない入居者も多い。	食事作りの一連の作業は、匂い、音等の五感の刺激や役割づくりなど、喜び、張り合い、自信を引き出すことにもつながり、ユニット毎に行われることが望ましい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、状態に対応したケアを心がけています。普段からお茶の機会を増やして水分摂取の習慣を作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。		

【事業所名】グループホームみんなの家 ユニット名:2階

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表により、個々のパターンを理解して、トイレへ誘導しています。	排泄チェック表に記載する事で、排泄パターンを把握して誘導するなど、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、毎朝のヨーグルト摂取や運動量の確保など行い、難しい場合に薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ベースとなる入浴時間はありますが、希望や必要があれば、夜間でも、お年寄り同士でも入浴しています。	通常は午後から夕方の時間帯に、2つのユニットの入居者が1階の浴室で入浴している。入浴したくない人には気の合う人から誘ってもらうなどして、それぞれの入居者が概ね隔日に入浴できるよう支援している。	さらに、ゆっくりくつろいだ気分で入浴できるように、入居者の習慣や希望、タイミングに合せたユニット毎の入浴が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の過ごし方を工夫して、安眠できるリズム作りを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬と説明書を保管。一日単位で準備し、服用を確認しています。変化があれば医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支え合う人間関係の中で、自然と役割が生まれています。一人ひとりがいきいきとした一日が過ごせるように支援しています。お酒可です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普通に家にいるように、外に出かけるようにしています。玄関を開放し、閉じ込められている雰囲気にならないように心がけています。	買い物や散歩などの日常的な外出を支援している。自由を尊重し、1人で外へ出た場合にも、離れた場所から危険のないように見守るなどしている。希望に添った個別の外出支援も行われている。	

【事業所名】グループホームみんなの家 ユニット名:2階

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、混乱されない範囲であれば、自由に所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人にとって、ご家族等のつながりは最重要ですので、理解と協力が得られるように支援を心がけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家であるように、自然と集まって笑える空間を心がけています。	共用空間は全体に落ち着いた雰囲気、浴室、トイレも、家庭的でゆったりとした造りになっている。ホームが自分の家と思えるように、部屋には名前を付けず、模様の違う暖簾を入居者に選んでもらい部屋を間違わないよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室に気の合う者が集まりよく過ごしています。共用の個室もあり、マッサージ器等自由に利用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人のスペースですので、生活に支障がなければ自由に持ち込み可能です。自室と感じられるように身近に慣れた物を置いていただくようご家族にお話ししています。	写真を飾ったり、それぞれの馴染みのものを持ち込んで、その人らしい部屋で居心地よく生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置など設備以外でも行動パターンを把握して、危険がないように心がけています。		